うつのみやまちづくり市民会議　提言書（案）

都市基盤整備分科会

－都市と自然が調和し、人にやさしいコンパクトな都市をめざして－

2007年3月29日

稲葉　典雄　　岡本　安之　　加藤　眞早代

酒井　誠　　佐瀬　祐之　　森田　陽子

森本　章倫　　吉川　二布　　渡辺　博芳

はじめに

平成１７年１０月に私たち９名は都市基盤整備部会に集まりました。それぞれ宇都宮市で生活、活動していますが、今まで顔も知らない10名でした。その後、毎月１回、市役所に集まり、自由な発想で意見交換を行いました。気づかない間に回数は18回に及びました。

私たちが当初、問題意識を持ったのは、宇都宮駅西口駅前の危険性、景観でした。見慣れた光景ですが、バスと自家用車、歩行者が錯綜し、餃子や金融機関の派手な広告が広場を取り囲んでいます。宇都宮駅東口や中心部にはさまざまな手が打たれていますが、宇都宮市の顔というべき西口周辺がこれからもこのような状況を続けていいのでしょうか。街は都市の風土、文化を示していると言われますが、外から宇都宮を訪れる人にこの駅前を見て宇都宮市の風土、文化の程度を感じるとしたら、たいへん悲しいことです。

続いて、問題は八幡山公園に移りました。中心部にありながら、宮タワーも夕方早くには閉じ、桜の時期以外はメンバーもほとんど行ったことはないとのことでした。公園の運営をNPOなどに移すという提案を真剣に考えてほしいと思います。

議論は次に大谷石、釜川、バス、新交通などに多岐に渡りました。共通しているのは、「今あるものを生かすこと」、「生活している目線で改善すること」です。私たち自身で努力しなければいけないこともありますが、行政としても市民の生活目線を意識して取り組んでほしいと思います。また、市に対しては情報がオープンになっていないとの声も多くありました。議論している中で、知らない間に多くのプロジェクトも動いていきました。もっと情報をオープンにする努力をしてほしいと思います。

中間報告で市長から提案のとおりだと言われたことはメンバーの胸に響きました。私たちは提言をまとめて部会を終了しますが、市は提言を真剣に受け止め、少しでも実現をしてほしいと思います。市の事務局にはこちらからの無理な資料の要求にもよく対応して頂き、議論が活性化しました。ありがとうございました。

平成19年３月

都市基盤整備部会長　岡本　安之

目次

1. 宇都宮市の都市基盤整備分野における重点課題

2. 重点課題解決に向けた目標（重点目標）

3. 施策･事業の柱

4. 事業内容

5. 成果指標

6. 市民の役割

参考　施策･事業体系

参考　重点課題･SWOT分析結果

宇都宮市の都市基盤整備分野における重点課題

宇都宮市の都市基盤整備分野における重点課題

① 50万都市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の品格を向上させる

→宇都宮駅周辺は市外からの玄関として重要であるが、西口周辺は駅前広場が狭く、危険であり、とりまく建物の景観も不適切である。また、東口は再開発を待つ状況にあり、殺風景である。

→この現状を改善し、都市としての顔であるJR宇都宮駅周辺の品格を向上させる必要がある。

② 都市全体の交通サービスの適切化を図る

→バスのサービス水準が悪く、魅力がないため、マイカーを利用しがちで、その結果、バスの利用客が増えず、サービス向上が図れないという悪循環に陥っている。また、通勤者の足としてJRの一層の利用を検討する必要がある。

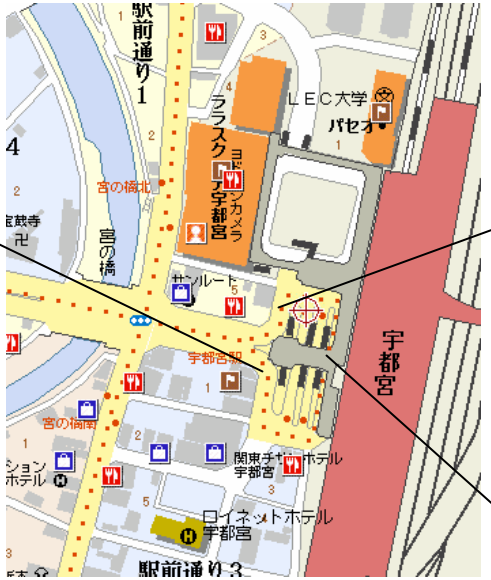
③ 都市の資源を磨き、個性と魅力を充分に発揮させる

→地域の資源が十分に活かされておらず、情報発信も弱く、市民の利用が少ない。また、観光客が楽しめるような都市観光の魅力が餃子しかない。

→この現状を打開し、内外に魅力ある宇都宮市としての個性と魅力を発揮していく必要がある。

生命の危険を感じ、景観的にも恥ずかしい西口駅前

歩行者デッキが交差点手前で終わるため、
子どもや高齢者にとって横断は命がけ



消費者ローンと餃子の看板が
目に焼きつく宇都宮駅前景観

閑散としている歩行者
デッキ

歩行者デッキの下の目
立たない大谷石の蛙

毎日見慣れた光景であるが、
これで50万都市の玄関口か

マイカーとバスが入り乱れ朝夕は激しい混雑

重点課題に対応した3つの重点目標

【重点課題①】
50万都市の顔として品格がない JR宇都宮駅周辺

【重点課題②】
適切でない交通サービス

【重点課題③】
個性と魅力が十分に発揮できていないまち

都市像

都市と自然が調和し、人にやさしいコンパクトな都市をめざして

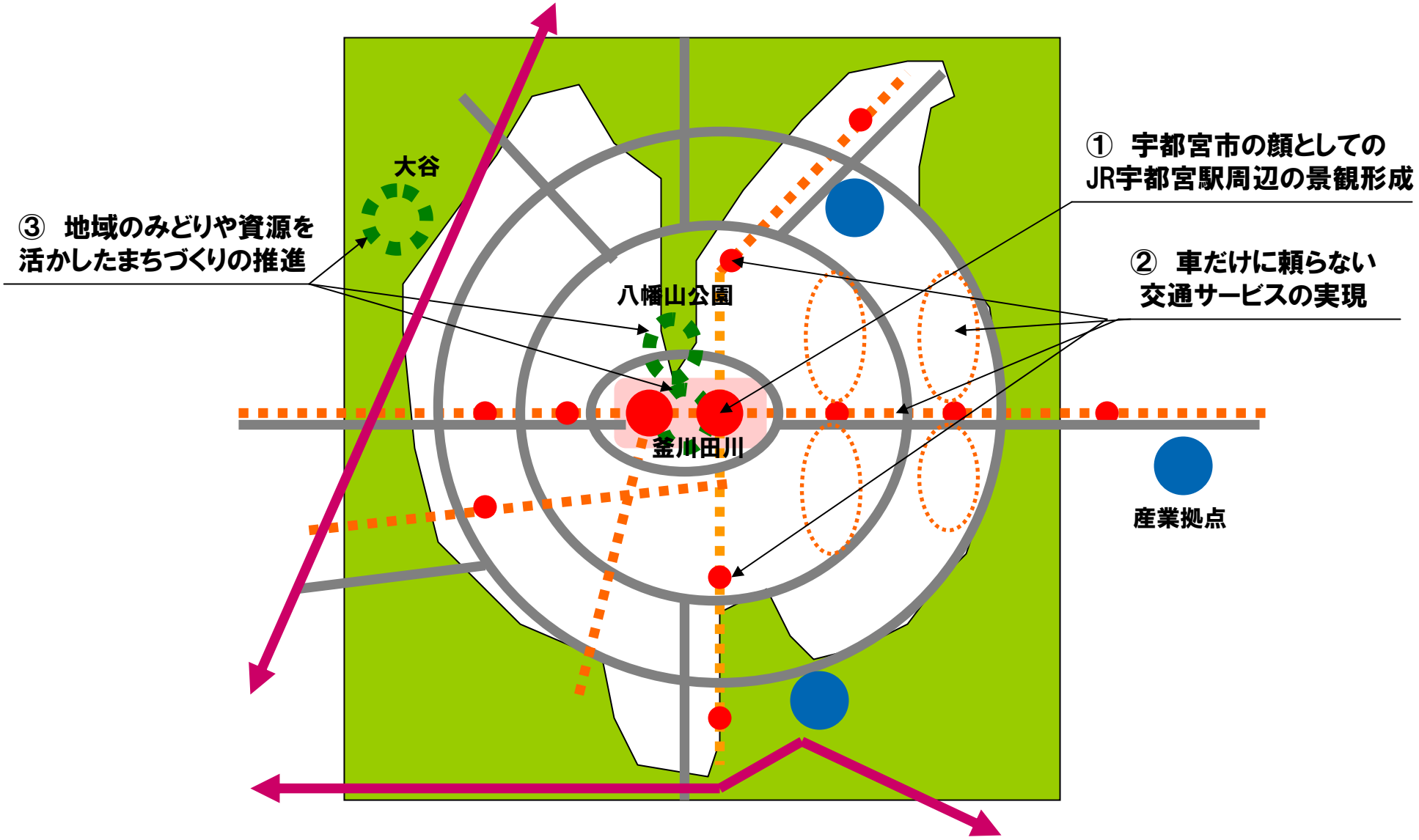
3つの重点目標

① **宇都宮市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の景観形成**
→広域からの玄関口であるJR宇都宮駅周辺の景観形成、機能強化を図る。

② **車だけに頼らない交通サービスの実現**
→高齢社会に対応し、鉄道の利便性の向上、既存バスサービスの改善、新しい公共交通システムの導入の検討など、車だけに頼らない交通サービスの実現に向けて、抜本的な改善を図る。

③ **地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進**
→地域のみどりや資源を活かし、魅力あふれる宇都宮市を形成する

都市と自然が調和し、人にやさしいコンパクトな都市をめざして



3. 主要な事業

宇都宮西口の改造、交通サービスの改善、八幡山や釜川の活用、大谷の魅力アップを推進すべき

主要な事業

①西口駅前広場の再整備・歴史性を語る美しい西口周辺の景観形成

②都市交通サービス改善プロジェクト・公共交通指向型まちづくりの推進

③地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進

- ③-1　八幡山公園を活かす
- ③-2　釜川を活かす
- ③-3　大谷を活かす

①西口駅前広場の再整備・歴史性を語る美しい西口周辺の景観形成

①対象

- 市民、来訪者

②目的

- 現状の駅前は、タクシー、自家用車、バスが入り乱れ、デッキも途中で歩道に降りており、危険である。安全性を確保し、快適性を向上する。
- 宇都宮市の表玄関として風格と歴史性の駅前景観を形成する。

③事業概要

- 駅前広場の全面的な再整備を行う。具体的には、駅前広場を拡張し、北口、南口を開設し、バス、タクシー、自家用車の明確な区分を行うとともに、歩行者デッキを駅前通りの歩道まで伸ばす。
- 駅前商業ビルの再開発を促進し、公開緑地を確保するとともに、派手な広告を規制し、風格のある駅前景観を形成する。

④事業主体

- 市・事業者

西口広場のあり方をみんなで考えよう！　もっと安全に　もっと使いやすく　もっと美しく

参考例　金沢駅前広場

②都市交通サービス改善プロジェクト・公共交通指向型まちづくりの推進

①対象

- 市民、来訪者

②目的

- 人と環境にやさしい社会の形成に対応し、車だけに頼らない交通体系の実現を図る。
- 全市的にバスサービスの飛躍的改善を行い、バス利用者を増加させる。
- マイカーの利用を抑制するために、公共交通を前提とした開発の誘導を行う。

③事業概要

- バスサービスの改善、新しい交通システムの導入、JR新駅の設置等を検討する前提となる宇都宮市全体の交通体系をあるべき姿を検討する。
- バス運転手の接遇の改善、ゾーン別バス料金制度の検討、宮バスの効率的な活用、ルート、停留所の見直しなどを検討する。
- 官民が協力し、公共交通が整わない新規開発は抑制するとともに、既存住宅地におけるきめ細かいバスサービスを検討する。JR宇都宮線宇都宮・岡本間、宇都宮・雀宮間に新駅を設置することを検討する。

④事業主体

- 市、民間事業者

③地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進

①対象

- 市民、来訪者

②目的

- 現在あまりうまく使われていないみどりや資源の魅力の向上を図る。特に、中心部では、八幡山公園、釜川、郊外部では大谷地域の魅力を磨き、市民や来訪者に愛され、利用の拡大を図る。

③事業概要

- 八幡山公園については、家族連れや恋人連れが安心して憩える場所とし、中心部からの交通アクセスを改善するとともに、宇都宮タワーの夜間開放、お洒落なレストランや植物園の設置、イベントの開催などを通じて利用魅力を高める。運営は指定管理者制度を活用し、民間やNPOなどとし、有料化も検討する。
- 釜川は沿道沿いを歩行者優先道路とし、歩きやすい環境とし、朝市や屋台などにより、宇都宮市の都心のシンボルとする。
- 大谷地域については、東北自動車道大谷PAにスマートインターチェンジを設置し、域外からのアクセスを改善するとともに、大谷地域に道の駅、大谷研究所を整備し、大谷観光及び保全利活用の拠点を形成する。

④事業主体

- 市、NPO、大学、民間企業、地域

重点分野成果指標案

目標	なってほしい状態	成果指標	定義、出所
①宇都宮市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の景観形成	公共交通の利用客が増え、JR宇都宮駅が安全に快適に活用されている。駅前の景観が風格を感じさせる。	JR宇都宮駅乗降客数	・JR東日本資料
		JR宇都宮駅利用客満足度	・安全性、歩行者快適性、自動車快適性などについてアンケート調査で満足度を把握
		景観ガイドライン遵守建築物割合	・景観ガイドラインの作成を前提として、駅前地区における遵守している建築物割合
②車だけに頼らない交通サービスの実現	公共交通機関が良くネットワークされており、サービスも改善され、日常的に活用されている。自転車の利用環境も整っている。	公共交通機関不便地域居住率	・公共交通機関を利用して中心市街地まで30分（例）で到達できない地域に居住している人口比率
		公共交通利用者数	・公共交通（バス、鉄道等）の利用者数
		公共交通利用率（バス、自転車等）	・ある地区（中心部、郊外量販店など）への来訪者調査で公共交通機関利用率を把握
③地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進	地域に緑があふれ、大谷石の個性的な建造物が多く、まちに賑わいがあふれている、	緑被率	・市域面積のうち緑で覆われている地域面積率
		都心部商業売上高	・都心立地商業施設の商業販売額
		八幡山公園利用者数	・八幡山公園、宇都宮タワーの利用者数
		釜川プロムナード歩行者数	・釜川プロムナード歩行者通行量
		大谷石造建造物数	・大谷石が使われている建造物数
		大谷地域来訪者数	・大谷地域の主要施設の来訪者数合計

都市基盤整備分野　基本施策体系別

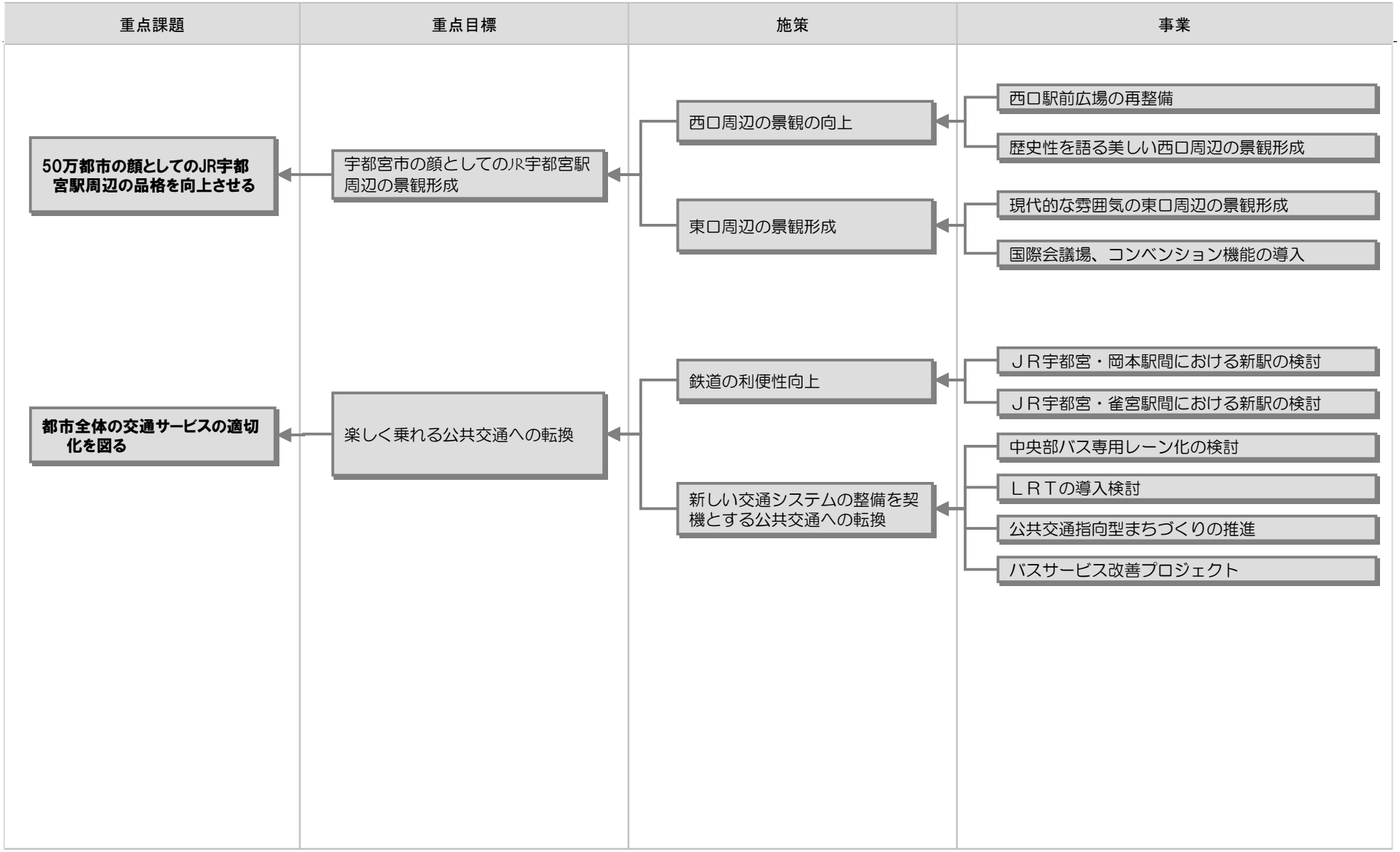
基本施策	施策指標
機能的で魅力のある都市空間を形成する	・コンパクト化率 ・都心部歩行者数 ・景観形成ガイドライン遵守建築物の割合
円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	・公共交通利便地域居住率
高度情報化社会の恩恵を享受できる体制を構築する	・ブロードバンドPC,携帯電話人口普及率

都市基盤分野　基本施策体系別　市民の役割

基本施策	施策	市民の役割
機能的で魅力のある都市空間を形成する	・地域特性に応じた土地利用の推進 ・都市機能の適正配置と機能間連携の推進 ・賑わいと活力のある都市拠点の形成 ・魅力ある地域・生活拠点の形成 ・都市景観の保全・創出	・市街化調整区域に自ら不法に建築しない。させない。 ・宇都宮駅西口駅前広場の改造について市民から提案する。 ・中心市街地でのイベントなどには積極的に参加する。 ・中心市街地のイベントを市民が自分たちで企画実行する。 ・誰にでも親切にふるまう。 ・各地区で都市景観ガイドラインの制定をめざし、行政と協働で内容を検討する。 ・景観に配慮した住宅を建設する・外観とする。 ・大谷石を市の財産として自ら積極的に保全活用する。 ・八幡山公園の魅力アップについて市民から提案する。
円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	・公共交通ネットワークの充実 ・道路ネットワークの充実 ・ひとや環境にやさしい交通環境の創出	・中心市街地への通勤、買物等は公共交通の利用を基本に考える。 ・近距離は徒歩、自転車、乗合タクシー等の利用を基本に考える。 ・交通マナーを遵守する。
高度情報化社会の恩恵を享受できる体制を構築する	・市民生活の情報化の推進 ・地域産業の情報化の推進	・地域で生活情報を収集、整理し発信するよう考える。 ・公共施設の予約など積極的にオンライン申請を利用する。

参考　施策･事業体系

【施策体系】


重点課題
重点目標
施策
事業
50万都市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の品格を向上させる
宇都宮市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の景観形成
西口周辺の景観の向上
西口駅前広場の再整備
歴史性を語る美しい西口周辺の景観形成
東口周辺の景観形成
現代的な雰囲気の東口周辺の景観形成
国際会議場、コンベンション機能の導入
都市全体の交通サービスの適切化を図る
楽しく乗れる公共交通への転換
鉄道の利便性向上
ＪＲ宇都宮・岡本駅間における新駅の検討
ＪＲ宇都宮・雀宮駅間における新駅の検討
新しい交通システムの整備を契機とする公共交通への転換
中央部バス専用レーン化の検討
ＬＲＴの導入検討
公共交通指向型まちづくりの推進
バスサービス改善プロジェクト

【施策体系】

重点課題
重点目標
施策
事業
都市の資源を磨き、個性と魅力を充分に発揮させる
地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進
市民の憩いの空間としての八幡山の活用
都心賑わい空間としての釜川の活用
蔵のあるまちづくりの推進
観光地大谷の魅力アップ
八幡山回遊路の整備
集客魅力アップ大作戦
ＮＰＯ等による管理運営の実施
釜川に沿って快適に歩ける環境の形成
フリーマーケット、屋台などのイベントの実施
大谷石造り建造物取り壊し事前申請制度の導入
清住通り　蔵しっくストリート事業
蔵資材大谷石バンク事業
大谷みちの駅の整備と観光拠点化
大谷研究所の整備
大谷スマートインターチェンジの設置

重点課題1．50万都市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の品格を向上させる

重点目標：「宇都宮市の顔としてのJR宇都宮駅周辺の景観形成」
広域からの玄関口であるＪＲ宇都宮駅周辺の景観形成、機能強化を図る。

施策①：「西口周辺の景観の向上」
現在、安全性、景観に多くの問題がある駅前広場及びその周辺地域の抜本的再整備を行い、宇都宮市の表玄関として風格と歴史性の駅前景観を形成する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
西口駅前広場の再整備	市民、来訪者	・現状の駅前は、タクシー、自家用車、バスが入り乱れ、デッキも途中で歩道に降りており、危険である。安全性を確保し、快適性を向上する。	・駅前広場の全面的な再整備を行う。具体的には、駅前広場を拡張し、北口、南口を開設し、バス、タクシー、自家用車の明確な区分を行うとともに、歩行者デッキを駅前通りの歩道まで伸ばす。	市
歴史性を語る美しい西口周辺の景観形成	市民、来訪者	・宇都宮市の表玄関として風格と歴史性の駅前景観を形成する。	・駅前商業ビルの再開発を促進し、公開緑地を確保するとともに、派手な広告を規制し、風格のある駅前景観を形成する。	市・事業者

施策②：「東口周辺の景観形成」
現在整備中に市街地整備事業における東口整備において、宇都宮市の東の玄関として現代的な景観を形成するとともに、コンベンション機能の強化を図る。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
現代的な雰囲気の東口周辺の景観形成	市民、来訪者	・市街地整備事業において、東口は現代的な雰囲気の景観形成を図る。	・使いやすい駅前広場を整備するとともに、現代的な雰囲気の駅前広場、歩行者デッキとする。西口とあわせて、北口、南口を開設する。	市
国際会議場、コンベンション機能の導入	市民、来訪者	・産業都市宇都宮市の活力を高める。	・市街地整備事業において、国際会議場、コンベンション施設の導入を検討する。	市・民間

重点課題2. 都市全体の交通サービスの適切化を図る

重点目標：「車だけに頼らない交通サービスの実現」

高齢社会に対応し、鉄道の利便性の向上、既存バスサービスの改善、新しい公共交通システムの導入の検討など、車だけに頼らない交通サービスの実現に向けて、抜本的な改善を図る。

施策①：「鉄道の利便性向上」

ＪＲ宇都宮線に新駅を設置し、通勤通学の利便性を向上する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
JR宇都宮・岡本駅間における新駅の検討	市民、来訪者	・JR宇都宮、岡本駅間に新駅を設置し、通勤通学の利便性を向上する。	・平出工業団地周辺における設置を検討する。地域企業、住民の寄付を集める、	市、JR、地域
JR宇都宮・雀宮駅間における新駅の検討	市民、来訪者	・JR宇都宮、雀宮駅間に新駅を設置し、通勤通学の利便性を向上する。	・川田町、一里周辺における設置を検討する。地域企業、住民の寄付を集める、	市、JR、地域

施策②：「新しい交通システムの整備を契機とする公共交通への転換」

既存バスサービスの改善、新しい公通システムの導入などを契機とし、マイカーから公共交通への転換を官民共同で促す。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
都市交通サービス改善プロジェクト	市民、来訪者	・人と環境にやさしい社会の形成に対応し、車だけに頼らない交通体系の実現を図る。 ・全市的にバスサービスの飛躍的改善を行い、バス利用者を増加させる。	・バスサービスの改善、新しい交通システムの導入、JR新駅の設置等を検討する前提となる宇都宮市全体の交通体系をあるべき姿を検討する。 ・バス運転手の接遇の改善、ゾーン別バス料金制度の検討、宮バスの効率的な活用、ルート、停留所の見直しなどを検討する。	市、民間事業者
中央部バス専用レーン化の検討	市民、来訪者	・バス運行の定時性の向上を図り、サービスを改善する。	・ソウル市等で実施されている中央部走行方式を検討する。その成果はLRT方式の参考にする。	市、バス事業者
LRTの導入検討	市民、来訪者	・公共交通への転換を図るため、人と環境にやさしいLRTの導入を検討する。	・現在、市と県で構想しているLRTについて、事業費、後年度の負担、事業スキーム、運行方式、運行ルートなど導入について可否も含めて引続き検討する。	市、県、民間事業者
公共交通指向型まちづくりの推進	市民、来訪者	・マイカーの利用を抑制するために、公共交通を前提とした開発の誘導を行う。	・官民が協力し、公共交通が整わない新規開発は抑制するとともに、既存住宅地におけるきめ細かいバスサービスを検討する。	市、民間事業者

重点課題3．都市の資源を磨き、個性と魅力を充分に発揮させる

重点目標：「地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進」
地域のみどりや資源を活かし、魅力あふれる宇都宮市を形成する

施策①：「市民の憩いの空間としての八幡山の活用」
八幡山を四季おりおりの市民の憩いの空間として活用する

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
八幡山回遊路の整備	市民、来訪者	・八幡山公園のアクセスの向上を図る。	・周辺に公園駐車場を整備し、市内からのバスのアクセスを図る。公園内は車乗り入れ禁止とし、回遊路にのみ人にやさしい乗り物を走らせ、公園内を回遊させる。	市
集客魅力アップ大作戦	市民、来訪者	・四季を通じて、集客魅力を図る。	・宇都宮タワーは夜間も開放し、バスとのセット券を発行する。おしゃれなレストランやフラワーガーデンなどを整備する。また、季節ごとのイベントを開催する。	市、運営事業者
NPO等による管理運営の実施	市民、来訪者	・市からNPOや民間企業の運営に移行し、魅力アップを図る。	・公園を有料化し、指定管理者制度を活用し、NPOや民間企業での管理運営とする。	市、運営事業者

施策②：「都心賑わい空間としての釜川の活用」
釜川ウォーターフロントを都心の賑わいと憩いの空間として有効活用する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
釜川に沿って快適に歩ける環境の形成	市民、来訪者	・釜川ウォーターフロントを市民が憩い楽しむ空間として活用する。	・居住者、搬送者以外の車を乗り入れ禁止とし、ベビーカーや女性が歩きやすいみちとし、ベンチなどを整備する。また、釜川から田川まで歩けるよう工夫する。	市
フリーマーケット、屋台などのイベントの実施	市民、来訪者	・釜川を市民や観光客が集う空間とする。	・フリーマーケットや朝市、屋台などのイベントを実施する。	NPO等

重点課題3．都市の資源を磨き、個性と魅力を充分に発揮させる

重点目標：「地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進」
地域のみどりや資源を活かし、魅力あふれる宇都宮市を形成する

施策③：「蔵のあるまちづくりの推進」
宇都宮市全域で蔵のあるまちづくりを推進する

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
大谷石造り建造物取り壊し事前申請制度の導入	市民	・宇都宮市の個性である大谷石造りの蔵等のむやみな破壊を抑制する。	・条例を設け、市内全域を対象とし。アドバイザー委員会を設置し、取り壊しの場合の事前申請制度を設け、委員会で活用、保存の方策等のアドバイスを行う。取り壊さざるを得ない場合、大谷石材バンクを活用するよう促す。	市
清住通り　蔵しっくストリート事業	市民、来訪者	・蔵のまちなみが比較的残っている清住通りについて、蔵の保存に努め、観光客も散策できるようなみちとする。	・地域NPOを主体にして、蔵の分布調査、パンフレットの作成、建造物のリニューアル、、イベントの実施、ショップの運営などを行い、観光客の誘致を図る。	NPO、大学、建築家等
蔵資材大谷石バンク事業	市民、事業者	・市内全域を対象に、やむを得ず取り壊さざるを得ない大谷石については、一時集積を行い、内装や再生で必要とする人々に安価に頒布する。	・取り壊しに伴って廃棄される大谷石の資材を収集、再生修復し、内外装材として、希望者に頒布する。	NPO等

重点課題3．都市の資源を磨き、個性と魅力を充分に発揮させる

重点目標：「地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進」
地域のみどりや資源を活かし、魅力あふれる宇都宮市を形成する

施策④：「観光地大谷の魅力アップ」
大谷及びその周辺を全国から集客できるような観光地として育てる

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
大谷みちの駅の整備と観光拠点化	市民、来訪者	・大谷に車が入り込むことを避け、みちの駅を整備し、地域観光、地域産業の拠点とする。	・大谷石細工、農産物など地域の物産を集めた魅力ある道の駅とするとともに、。そこから徒歩、自転車やバスなどで周遊や散策を促す交通拠点とする。	地域住民団体等
大谷研究所の整備	市民、来訪者	・大谷石の研究、大谷石採掘場の活用などを研究する拠点を整備する。	・大谷みちの駅と併設させ、大谷石切削の歴史の展示、加工体験、調査研究を行う。	大谷石組合、大学等
大谷スマートインターチェンジの設置	市民、来訪者	・大谷パーキングエリアにETC限定の出入口を設置し、大谷地域への観光客の利便性を向上させる。	・現在全国で社会実験が行われており、国土交通省に提案する。	市、県

参考資料：都市基盤整備分科会　重点課題・SWOT分析結果

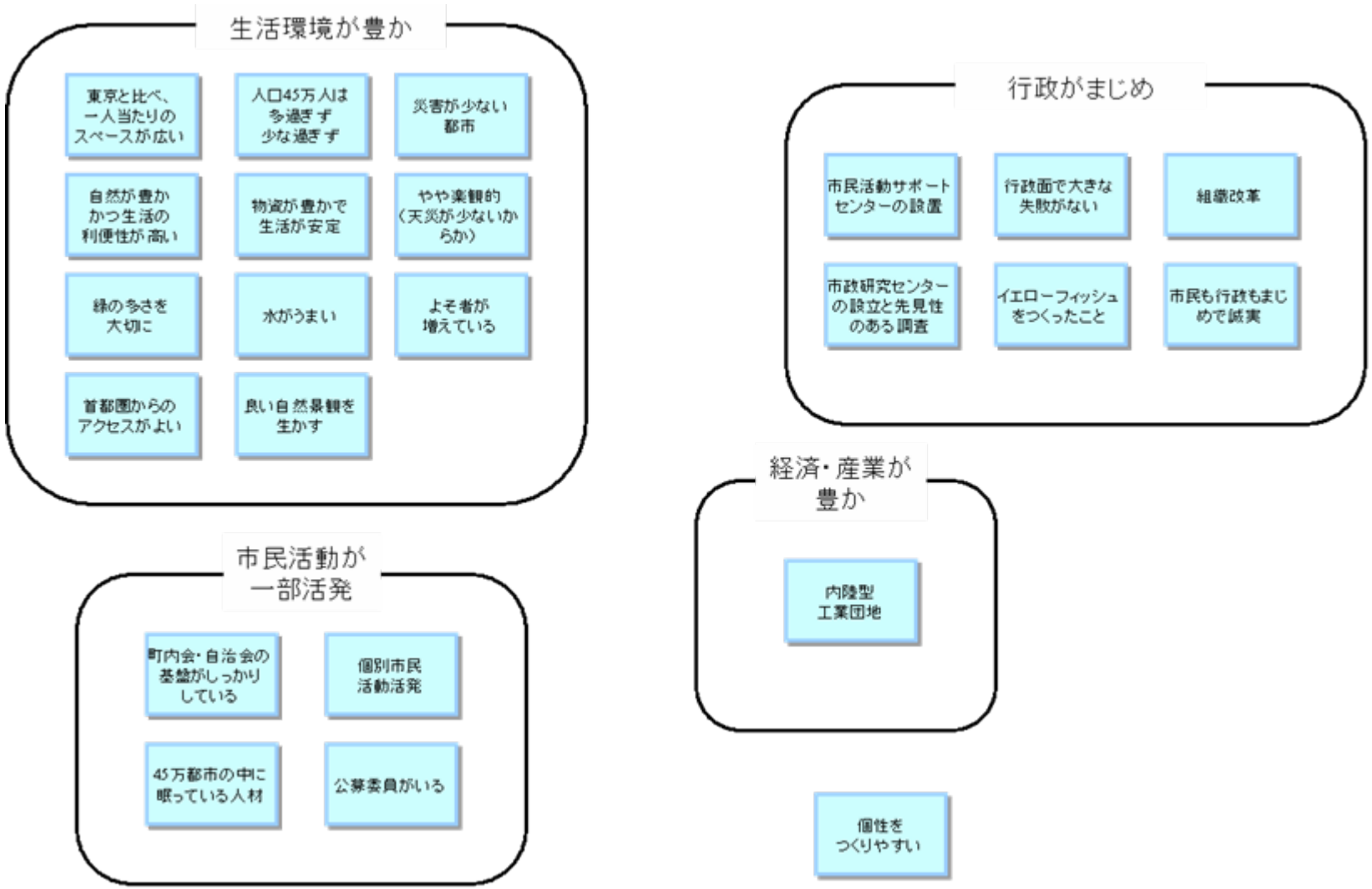
1. 都市基盤整備分科会　重点課題

都市基盤整備分科会は、重点課題を絞り込み、以下のようなテーマについて課題を設定した。

課題	背景・理由	やるべきこと
JR駅周辺と東武駅周辺のまちの顔の形成	● 市外からの玄関 ● 中心市街地の活性化 ● 観光客への魅力づけ	● 西口駅前広場の景観、構造、動線の見直し（田川まで含めて） ● オリオン通りの再生 ● ばんばの復活、笑いを提供する舞台の整備
楽しく乗れる公共交通への再編	● バスに魅力がない ● 後期高齢者の増加 ● バス・鉄道利用者の減少	● JR新駅の検討、JRと東武の乗換駅の新設検討 ● LRT等の検討（是非も含めて） ● バスサービスの改善（エリア料金制、乗換割引、接客の改善、など）
地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進	● 既存樹木の再生は不可能 ● 歴史資源の活用、PR、教育	● 八幡山公園の再整備 ● 蔵のまちの形成 ● 大谷の観光地としての再生 ● 釜川周辺の再整備
魅力ある生活拠点の形成	● 地域の顔の形成 ● 地域生活の中心核の形成 ● 市町村合併をにらんだ整備	● 東、西、南、北拠点の整備
（市民生活におけるITの積極的活用）	● 長寿社会におけるサービスの提供 ＊ITについては基盤整備の時代は終わり活用推進が課題。都市基盤分野で1項目として取り上げる意味は薄い。	● 地域情報の発信 ● 教育、文化での活用

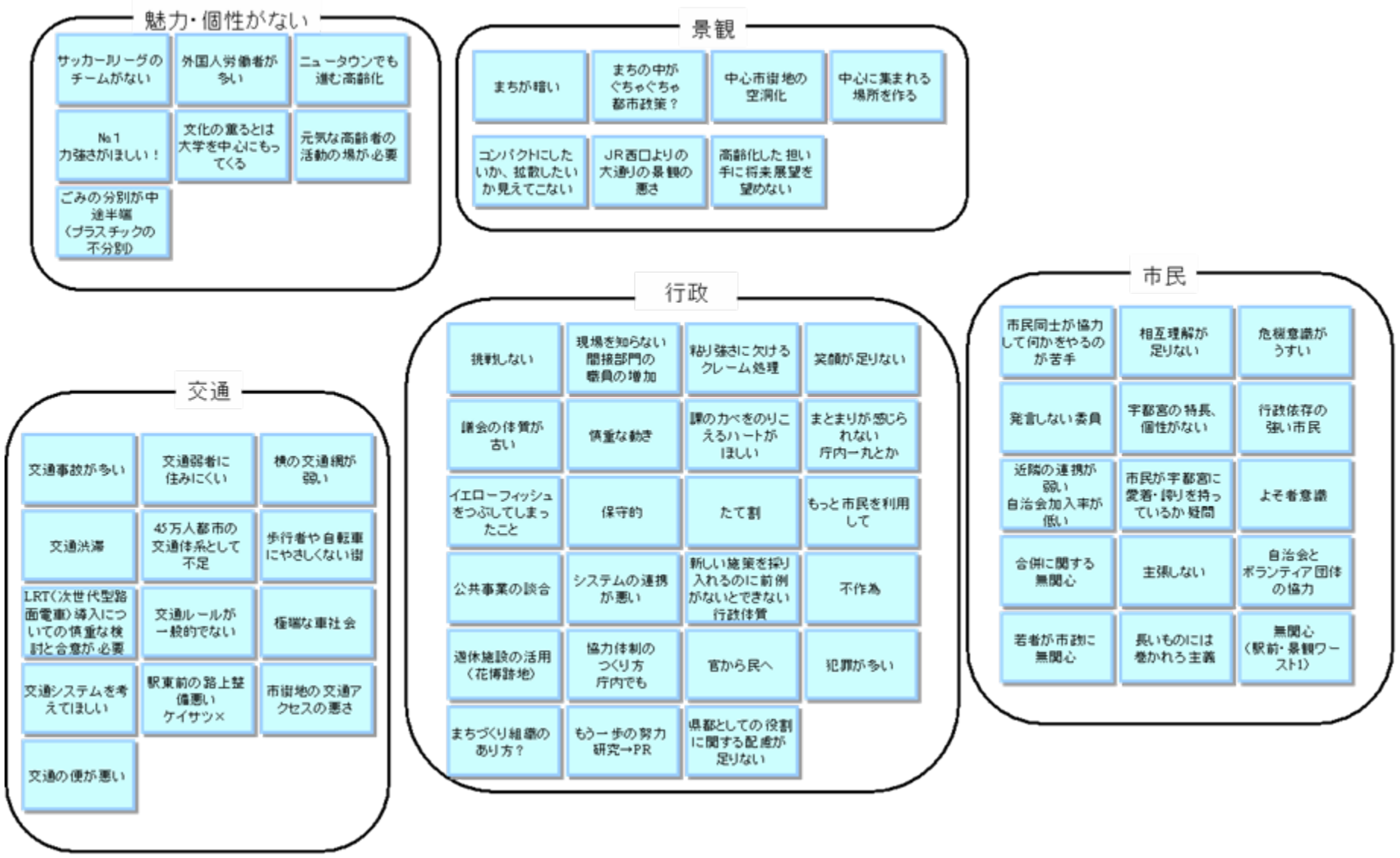
2. SWOT分析結果（１)SWOT分析　①強み

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果（１)SWOT分析　②弱み

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果 （２）SWOT分析　強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

都市基盤整備分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み	弱み（問題）
①45万都市に眠っている人材	①45万都市の交通体系として不足
②内陸型工業団地	②まちが暗い
③市民も行政もまじめで誠実	③システムの連携が悪い
④災害が少ない都市	④行政依存の強い市民
⑤自然が豊かかつ生活の利便性が高い	⑤魅力・個性がない

2. SWOT分析結果 （３）SWOT分析　③機会／④脅威

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会

元気な高齢者が増加
- ◦元気な高齢者が増える
- ◦健康志向が高まり、体を動かすことの重要性が増す
- ◦高齢者の社会参加
- ◦リタイアする団塊世代のマンパワー
- ◦高齢者有効活用
- ◦高齢者の活動の場作り
- ◦超高齢化

市民活力の活性化
- ◦市民活動の活発化
- ◦女性の力がまちづくりに投入される
- ◦NPOの活動の普及（子供の安全、高齢者の安全）
- ◦ボランティア活動が今以上に活性化
- ◦よそ者の積極性を輸血して市民体質の改善
- ◦市街地にポイントとなる場所作り

協働の進展
- ◦市民協働の効果が出てくる
- ◦行政と市民と一体になる様に
- ◦行政サービスの意識が変化する
- ◦市政の情報開示
- ◦自己責任の時代

環境・景観への意識の高まり
- ◦景観や自然環境の良さがますます注目される
- ◦自然景観に恵まれた天才の少ない住み良い都市
- ◦使い捨ての意識が弱まっている
- ◦魅力ある環境都市

IT化
- ◦インターネット活用
- ◦情報のIT化がさらに進
- ◦個人情報保護の徹底した社会

交通の利便性が高まる
- ◦交通への配慮
- ◦自動車抑制の先進都市・環境都市化
- ◦低公害交通機関導入の先進都市へ

新産業が発展・連携していく
- ◦産業の発展
- ◦産学官の連携
- ◦モビリティ産業の外に燃料電池産業を積極誘導

脅威

自然環境の減少
- ◦身近な自然環境（里山、樹木など）が減少する
- ◦農地がますます減少する

教育環境の悪化
①親のレベル
②教員のレベル
③地域のレベル
- ◦子供は地域で守る
- ◦安心ある子育て
- ◦子育て環境等保育園の充実
- ◦人間としての教育
- ◦心を動かすことが今以上に必要
- ◦教育のやりもどし

市民間の連携がとりづらくなってくる
- ◦市民の意識二極化
- ◦ITに関しての二極化
- ◦政治に対する関心が弱まる
- ◦横のつながりがさらに必要な時代になる
- ◦世代間の意志不統一（孤立化）

財政の悪化
- ◦国民保険の経営悪化
- ◦年金問題
- ◦政府の予算管理の変化

ますます魅力がへっていく（特色がないため）
- ◦名物が作り出される
- ◦文化の香りのしない都市は敗者になる
- ◦魅力のないまち
- ◦特徴のないまち
- ◦魅力のない素通り都市

ゴーストタウン化
- ◦中心市街地のゴーストタウン化
- ◦都心部のゴーストタウン化
- ◦大規模店がますます増加する

犯罪の増加
- ◦犯罪の少ないまち
- ◦防犯で安全なまち
- ◦社会の不安定化

少子高齢化による人口減
- ◦特に市周辺部で小学校の統廃合が増える
- ◦労働力人口の減少
- ◦少子化が進
- ◦高齢化が進む
- ◦人口減
- ◦税収が減少する
- ◦産業力、生産力が減少する
- ◦高齢化社会への対応

交通弱者の増加
- ◦交通渋滞
- ◦高齢化により交通弱者が増える
- ◦高齢者への交通システム
- ◦LRTの導入は反対
- ◦車社会に高齢化の波が押し寄せる
- ◦自動車公害で市民・商店街共倒れ
- ◦車社会の弊害がさらに深刻に
- ◦車社会で生活できにくい人の増加

- ◦官と民の役割を整理しないと市民に負担が増える
- ◦合併への対応を迫られる
- ◦南北問題（世界の中で宇都宮の経済力を活かす）
- ◦東京都の競合
- ◦ペットの数が増大（ペット病院も）

2. SWOT分析結果 （４）SWOTクロス分析結果

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×機会

- ◇IT化を推進して一方通行でない双方向的意見提案システムを築き、情報公開の迅速化を図る
- ◇交通システム網の進展により交流人口を高める
- ◇自治基本条例を作る（市民本位の街づくりを保証する）
- ◇元気な高齢者を積極的に採用し,経験・技術を生かす機会を作る
- ◇高齢者の社会参加
- ◇介護予防政策で医療費削減
- ◇行政は高齢者を守る
- ◇既存の施設の積極的開放と多目的利用の促進
- ◇市民教育の充実
- ◇目覚まし講座の充実
- ◇市民活動のきっかけづくりの場の提供
- ◇行政サービスの提供に必要な専門知識を市民から得る
- ◇市民交流の広場づくり
- ◇市民、行政。能力を還元しあい、協働の機会を増やし互いに高めあう
- ◇協働意識の高まりにより市民活動を高める
- ◇行政サービスの担い手としての市民を採用
- ◇景観行政の充実（景観地区の指定、景観計画の策定）
- ◇宇都宮の景観をどのようなものとするか、一貫してｱｰﾊﾞﾝﾃﾞｻﾞｲﾝを実行できる体制を築く
- ◇市街地のビルの高さを規制して自然景観を活かす街づくり体制を築く
- ◇川が貫流する都市の良さを活かす
- ◇小さなビジネスの保育器（インキュベーター）をつくる
- ◇人・組織、連携システムづくり（マニュアル）
- ◇ゴミ等の循環システムを高め生活環境を良くしていく
- ◇箱物以外への投資
- ◇地域コミュニティより子供の育成安全を確保する
- ◇子供たちを中心とした街づくりを積極的に推進
- ◇財源難の克服
- ◇公募債の積極的活用
- ◇工業団地における団塊世代退職者を活用協力をうながす
- ◇団塊退職者の技術を継承し産業力を高める
- ◇企業を市民の交流を通して新風を吹き込む
- ◇産学官の連携を高め、地域産業を高める
- ◇防災士教育機関の設置
- ◇余力を防犯や人間関係づくりにむける
- ◇歴史を前に出す
- ◇観光資源のPRを客の誘導策
- ◇県に負けない魅力的なキャッチフレーズの創出
- ◇CO_2の嫌煙分煙で環境度up
- ◇もったいない運動の推進（食育の充実）

弱み×機会

- ◇平坦な土地を利用した自転車道の整備
- ◇市民意識の向上
- ◇市民参加のアイディアを市民に募る
- ◇行政と市民が危機感を共有するしかけを行う
- ◇行政以外の市民活動相談窓口を
- ◇分散型の市民生活支援システム
- （身近なところに福祉や子育て支援の場）
- ◇ケアマネジメントの宇都宮モデル
- （利用者の立場に立ち時には行政を闘うケアマネージャー）
- ◇市民が作る楽しい街
- ◇行政が施策の実施をめぐる市民協力を積極的に要請
- ◇明るい街づくりに。大通り沿いのビルは照明を
- ◇提案（もっと知らせる） 話す・伝える・お知らせする
- ◇交通事故死1位の本県の、原因究明と対策及び防止の実行
- ◇車を利用しないで生活できるまちづくり
- ◇MMの導入（市民協働のコミュニケーション）
- ◇公共交通を放射線状からネットワーク状に改善し、交通弱者への配慮を強める
- ◇交通政策にはビジョンが必要
- （時には採算性を度外視してもやらなければならない）
- ◇放射線状の交通網を結ぶ横軸の交通網整備
- ◇公害のないまちづくり
- ◇コミュニティビジネスの育成を行政の主導で
- （市民協力）
- ◇市民の誇りに結びつく施策
- （美しい街、大谷石、新交通システム）
- ◇ギョウザに絡めた宇都宮独自のキャラクターグッズの考案
- ◇特徴がない弱みを逆用して新しい特徴を皆で創り出し確立する
- ◇今あるものを生かす、のばす、知らせる
- ◇行政が抱える難題を良い意味で市民に丸投げする
- ◇大学を魅力的にすることが街の魅力を押し上げる
- ◇市内における総合的学習の成果を行政が集約する
- ◇この際、はっきりと政令指定都市を目指す
- ◇自然エネルギーを用いた電力供給でまちを明るく
- ◇総合型地域スポーツクラブを世代間交流の拠点に
- ◇学び隊精神向上委員会（学びの活かし場）

2. SWOT分析結果 （４）SWOTクロス分析結果

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

- 人材の活用（技術者・高学歴表）
- 人を活かす
- 市民中心のまちづくりでまちの魅力をつくる
- 市民活動の活発化
- 居住地との関わりのある教育（小・中）
- 小・中（高）の社会人教師増強
- 宮祭りイベントの改良
- 更なるボランティア活動の活性化
- 市民のボランティア・コーディネーターを育てて地区市民センターに配置
- 清原工業団地等へのアクセスをよくしないと宇都宮から出て行ってしまう
- 工業集積に対する交通対策が必要。環境の悪化
- 特徴あるまちづくりで人口増を（流入、子育）
- まじめ誠実であるゆえに
- 小中高大でボランティア参加をカリキュラム化宇都宮方式といわれるようなものを作りたい
- 都会と比べた場合の大学スペースの広さ→生涯学習等人々の憩いの場へ活用
- 自然公園の充実→自然の資源を生かした環境イベントの実施
- 小中学校施設における体育館・グラウンドの充実→体育館等のスポーツ活動機会の拡大を
- 高齢者・子供の体、健康づくりへの関心→総合型地域スポーツクラブの配置を
- 公民館・コミュニティ施設に対する住民の身近感→自主運営・自主管理のコミュニティ施設へ
- 環境都市を目指す（自然、災害）
- 児童公園など身近な施設に対する住民の愛着高い→住民による自主運営、自主管理に切り替える
- ごみのないクリーンなまちづくり（シンガポールをモデルに）
- 起業支援強化段階の世代のビジネス戦士をソーシャル・ビジネスの担い手に
- 協働・市民参画条例化が求められている
- 行政の積極性が求められている
- 他に誇れる“宇都宮”モデルを協働で作る
- 人を呼び込む

- 団塊の世代が街づくりにかかわれる人口をひろげる
- 郊外ニュータウンの高齢化対策、大学との連携、寮、まちづくりへの参加実践的学習
- 都心に「市民の森」を持てないか（JR東口など）都市の魅力の向上策
- 県内市町村の自然を守る。宇都宮市民ボランティア結成

2. SWOT分析結果 （４）SWOTクロス分析結果

都市基盤整備分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

弱み×脅威

市の出張所機能についての住民理解が不十分→出張所主体の積極的PR
- ◇郊外ニュータウンに取り残される交通弱者、新交通ｼｽﾃﾑは必要で時には採算性を度外視してもよい
- ◇平地林の減少→植林スペースの場を設定
- ◇情報の積極的な提供、市民活動NPOなど
- ◇情報誌新聞の開発（町の顔）
- ◇市民に情報をわかりやすく伝達する工夫
- ◇市の「誇り」が埋没→市の誇り（ソフト、ハード）を発掘
- ◇終バスの時間を遅くする
- ◇まちが犯罪につながる
- ◇運転不可の視点
- ◇徒歩環境の構築
- ◇交通体系を整え、交通弱者を減らす
- ◇公共交通を充実させて蘇民のふれあいをうながす
- ◇歩いて買い物ができるまち（公共交通網の完備）
- ◇温暖化対策、農産品が変化
- ◇家庭菜園の増設
- ◇街が空洞化していく現状を検討の必要あり
- ◇中心地に高齢者が活動できる場所
- ◇新交通ｼｽﾃﾑの導入により都心を歩いて楽しめる空間に改造→新しい都市の魅力に
- ◇強みを生かした宇都宮モデルの創出
- ◇若い人達が自由に発表できる場所
- ◇若者を中心に集める
- ◇地域コミュニティの強化
- ◇中心を店化しないで文化的中心地にする
- ◇歩行者天国を実現して近い将来に備える
- ◇中心市街地に子供や高齢者が集まる魅力なし→歩行者天国の実現を
- ◇市民不在の行政を勧めていくことが多い

自然環境を大切に考える
- ◇住民が市役所に依存しすぎる→一定の予算を地域住民の裁量で利用
- ◇市民が主体となってまちづくりをすすめる場作り
- ◇自然景観の宣伝活動の強化
- ◇全体的な交通体系の整備を要する。渋滞と弱者対策
- ◇市民の意識向上の寄与する学び。体験の場。予算を確保する
- ◇国際交流、姉妹都市を表現できる店
- ◇行政の協働への意識の向上がもとめられてる
- ◇市民の公共への関心・意識の向上が求められている
- ◇子育て環境の充実
- ◇犯罪防止策
- ◇魅力、個性の創出がないと交流人口も増加しない
- ◇魅力、個性がないと宇都宮に対する誇りが生まれない
- ◇市民、行政企業の協働ネットワークづくり
- ◇エリア、テーマ型懇談会を定例開催
- ◇教育の充実、道徳心
- ◇行政依存過ぎるのはダメ。地域での対策地域自治がめばえない
- ◇街灯の少なさ（夜間の暗さ）→デザインも含め住民アイディアの採用で設置

まとめ

- ・市民・企業・行政の情報共有
- ・真の意味での市民と行政との協働の実現
- ・団塊の世代の地域での戦力としての活用
- ・身近な公共施設の有効活用
- ・近隣での対話と助け合いのある地域社会の構築